

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990100182		
法人名	株式会社 トウルーケア		
事業所名	トウルーケアG.H.ハイブリッジ		
所在地	栃木県宇都宮市若松原1-11-10		
自己評価作成日	令和 元 年 7 月 31 日	評価結果市町村受理日	令和 元 年 11 月 5 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	令和 元 年 9 月 24 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設ではの安全安心な生活を第一に考えている。そして、毎月のイベントを充実させるよう努めていく。その中で、家族に声を掛けながら、意思の疎通を図ることに努めて行く事。また、施設から出ていき、買い物等を楽しんで頂くように、努めて行く事です。それから、特に1丁目では、レクリエーションを重要視している。その一環として、毎週月曜には、ヨガ教室を開催して、入居者様と職員で、いっしょに参加しています。かなり成果が出ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市南部の住宅地に位置し、近くには警察署や消防署、総合運動公園、スーパーマーケット、商店もある利便性に富んだ環境にある。事業所の理念である「明るく元気に挨拶、いつも元気でゆとりの介護」を管理者と職員とが常に心に置き、利用者に楽しく元気で長く暮らしてもらいたいと願い、サービスにあたっている。ユニット毎に壁紙の色などを工夫し個性を出している。家族や知人の面会も多く、来所時には椅子を提供するなどしてゆっくりと飲談できるよう配慮している。終末期の支援についても、家族に寄り添いながら、看取りケアを協力医、事業所一丸となって対応し、実績をあげている。敷地内に独立した「交流センター」を持ち、イベントの開催や地域包括支援センターの事業に提供するなど、地域住民との交流拠点にもなっている。近隣家庭が避難場所になってくれるなど災害時の地域との協力体制ができています。自治会主催の徘徊訓練に事業所で参加するなど地域とのつながりを大切にしている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に明るさを絶やさず、ゆとりある介護に徹するよう努めている。	筆字で簡潔に表現された事業所理念が玄関や各フロアーに掲示され、職員は常に見ながら介護を行っている。管理者及び職員は、職員会議やカンファレンス等を通じて理念の共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の協力者を交えてのイベントを始め、地域の行事にも参加するように努力している。また、包括の行事に施設の交流センターを使っていただき、協力している。	交流センターで行うボランティアによる津軽三味線やそば打ち会などに、近隣の家へ案内状を配り参加してもらっている。自治会の餅つき大会に参加したり、散歩途中で公園で遊ぶ親子とあいさつを交わしたりと、地域との交流を日常的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の自治会に協力して、認知症の知識を高める計画で、自治会連合会の主催の徘徊訓練に協力している。一般の方々に認知症というものを理解していただけるよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的の開催により、以前より地域の理解が得られているように感じられます。特に自治会連合会からの働きで、他の施設からも参加していただき開催するようになりました。	会議は2か月ごとに偶数月の第2火曜日と決めて開催し、活動報告を行っている。参加者からの貴重な意見は運営に反映させている。自治会連合会長や地域包括支援センター職員、外部施設の管理者も出席し、地域との協力関係の強化にもつながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括センタからの依頼もあって、交流センターを使っていただき、施設の存在をアピールすることが出来、より信頼関係も築き上げられています。	運営推進会議や交流センターでの事業などを通じて地域包括支援センター職員と情報交換したり相談に乗ってもらったりしている。自治会連合会主催の徘徊訓練にも事業所で参加・協力するなど、互いの連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々入居者様に対して、決して拘束する介護、拘束しなければならないような介護を必要とする事のないように努めている。	2か月に1度の所内委員会での話し合いや、本部研修への参加により、管理者・職員ともに身体拘束をしないケアについて勉強している。毎月の所内カンファレンスでも取り上げ、全員の理解・共有を図っている。職員同士も気が付いた時には「今の言い方は強いよ」など注意しあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常日頃より、入居者様の実態を把握しながら、入居者様への虐待行為は絶対にしてはならないということを、指導しています。		

トウルーケアG.H.ハイブリッジ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様一人ひとりの立場や状況を把握しながら、家族様とも常に話し合う機会を設定し支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	くまなく説明して納得して頂くように、実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へは、毎月入居状況を通知しながら、要望等を聞くようにしている。	面会時や敬老会などの行事へ参加してもらった時に、日頃の本人の状況を伝え、家族からも意見・要望を聞いている。家族同士の交流もあり、横の繋がりで忌憚のない意見や情報交換もできている。挙がった意見は所内で検討し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とは、毎月始めに実施している各フロアでのカンファレンスにおいて職員との情報交換をしている。	毎月のフロア毎のカンファレンスをはじめ、管理者は日常業務の中でも職員とコミュニケーションを図り、日頃から職員の意見をよく聞いている。食事介助、入浴誘導の工夫、その他、意見・提案が活発に出され、所内で検討し運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各フロアの状況を見ながら、職員間の仕事の流れを把握している。時には残業の手配も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	若い職員が少ないことから、職員間に任せる事が多くなっている為、各自が責任をもって従事している。より意義を高めるため、出来る限り研修に行くように勧めている。現実には、なかなか難しく、出来ていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の交流に関しては、自治会連合会の会長からの勧めで、他の施設の運営推進会議にも参加して情報交流も出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	状況を見ながら、特に入居者様の情報を把握すること、既存資料を見て信頼関係を少しでも早く見つけて、寄り添った介護が出来るように心がけていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様とのコミュニケーションを密にしながら、お互いを理解して、より信頼関係を築き上げていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様は、介護の情報が少ない事が多い為、少しでも現在の状況を理解していただくことから、支援していくようにする。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様のすみかは、ここなんですと声かけを常に行い、不安な状況にならないように心がけている。決して押し付けることのないように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の家族構成を理解して、家族様の理解者であることを、理解していただくよう努めていきながら、築き上げていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様が入居されたときに、今まで使っていたものを持参していただいたり、衣類を持ってきてもらったりしている。	訪ねてきた友人や知人を職員が温かく迎え入れ、居室で本人と落ち着いて歓談できるよう配慮している。時には家族に食事等へ連れ出してもらっている。本人との普段の会話などから思い出の場所などを聞き出し、馴染みの場所との関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	イベントやらレクリエーション等において、同じ作業をしていただいたり、共通する事を見つけるようにしながら、関係を築き上げていく。		

トウルーケアG.H.ハイブリッジ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設を退居されてからも、情報入手したりしているので、特別な事があつたりしたときには、施設に連絡があります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の要望等に満足していただけるように、各フロア内のカンファレンスを実施して協議しながら、努めている。	入居時に本人・家族から話を聞き、生活歴や暮らしの希望を把握している。日頃から本人と会話し、会話が困難な場合でも本人の話をよく聞いて表情や様子を観察し、職員間で相談しながら本人の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様より今までの生活状況を理解しながら、ご本人に寄り添ったケアをしていく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録をもとにしながら、実際の状況を常に理解して、向上心を欠かさないようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスと家族様の面会やイベントにいられた時を利用して、現状に沿った計画を作成している。	本人の希望、家族の意向を聞き、カンファレンスで主治医、訪問看護師、職員等の意見を聞き、現状に即した介護計画を作っている。毎月モニタリングし3か月ごとに見直しを行っている。大きな変化があれば適宜見直すなど対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活記録と申し送りを作成して、介護計画が実施されているかを、確認しながら見ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の要望やニーズに対しては、家族の協力等を得ながら、馴染みのある友人関係の協力、状況に応じては本部の協力を得る事もある。		

トウルーケアG.H.ハイブリッジ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に設立されている、県の運動公園を利用しながら、春は花見に出かけたり、季節に応じて利用している。また、自治会連合会のコミュニティセンターの催しに参加したりしながら、協働している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調に応じて、訪問看護もしくは主治医に相談しながら、最適な医療を受けられるように、支援している。	かかりつけ医は、本人・家族了解のもと従来の主治医の紹介状をもらって事業所の協力医に変更している。週1回の往診があり、薬も2週間分届けてもらっており、往診の内容は家族に知らせている。内科以外の通院は家族付き添いで行き、結果は現かかりつけ医につないでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平成28年の12月より、訪問看護が採用され、週1日来てくれるようになり、主治医と共に今まで以上に、情報が広がってより最適な看護が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入院に関しては、施設近辺の病院を出来る限り使わせていただき、入院中の情報を把握しながら、退院後の介護に役立っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本施設では、看取り介護の加算は取得していませんが、入居者様の終末期に対しては、ご家族様と早めに相談する機会を設けている。よって、入居者様に沿ったケアを考えている。	重度化や終末期に関しては入居時に意向を聞き、事業所の指針に基づき方針を共有している。様子が変わった時には早めに話し合いを持ち、状況に合わせて変更している。本人・家族の意向のもとに、思いに寄り添いながら最期まで看取れるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の応急手当の訓練については、現状ではなかなか難しいものがありますが、主治医もしくは訪問看護に相談したり、資料を取り寄せたりしながら、対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の協力者の皆様には、施設の為に災害時にはご自宅へ保護していただけるように、体制作りが出来ています。	消防署立ち合いのもと夜間訓練を含めた災害訓練を実施している。夜間想定、火災・地震想定、連絡体制、地域協力等を盛り込んだ「緊急時対策マニュアル」を表にして職員に示している。近隣3軒には利用者の一時避難場所としての協力も得ている。	事前に発生時間がわかっている訓練では迅速な避難誘導が行えているので、一段階向上として、いかなる状況下でも円滑な避難誘導が行えるよう、急な災害に備え、予め時間を知らせない訓練を行うなど、より実際に即した取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の居室におけるプライバシーを常に理解して、個人の尊厳を尊重している。そして、本人らしさを大切にしている。	男女の違い、宗教の違い、経歴など利用者個々には個性があることを理解したうえで、職員は利用者の気持ちを尊重している。尊厳とプライバシーを傷つけないよう言葉かけにも注意しながら本人の気持ちを優先に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の希望に沿ったケアを第一に、そして、家族とのコミュニケーションを大切にしながら、本人が自由な選択が出来るように、介護している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護職員の都合による介護をすることのないように、入居者様を尊重した支援を実施している。必ず、見直し検討をしながら実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の個性を生かせるように、気を付けている。特に女性に関しては、女性であるような服装から身だしなみをケアしながら、支援していく事。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設内の業者による食事を提供している。時より家族を招いて、いっしょにイベントに置いて、食事会を開催するようにしている。	おかずは業者委託し、ご飯とみそ汁は職員が作り、利用者は配膳、テーブル拭きを行っている。そば打ち会では利用者が麺つゆを作り、家族も参加し一緒に楽しんでいる。敬老会やクリスマス会の特別食や、弁当やケーキなどの配達も取り入れ、食の楽しみを感じられるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の確認と生活状況を合わせて、環境の変化の妨げにならないように努めている。特に、本人の個性を生かしながら、食事全体のバランスを考えて、支援していく。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の中には、ご自分の歯を持って大事にケアをしている。入れ歯においても、衛生面を考えて、うがい等を常に実施している。		

トウルーケアG.H.ハイブリッジ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様が不快感を感じる事のないように、排泄パターンを把握しながら、介護に努めている。トイレでの自立に向けた支援を実施している。	一人ひとり排泄記録を付けてパターンを把握している。プライド、プライバシーに注意しながら声掛けし、トイレで便座に座って用が足せるように介助している。本人の希望があれば同姓介助にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者様のADLを把握しながら、食後の運動と食事の内容を考えている。また、主治医との情報交換を絶やさないようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	施設としては、週2回としていますが、状況においては、臨機応変に対応している。	基本は週2回の入浴を1対1で介助している。希望や状況に応じて入浴日や回数の変更もしている。入浴剤の使用や職員との会話を楽しみながら、リラックスして入れるよう配慮している。また、入浴時に爪切りをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の状況に応じたケアを常に考え、安眠出来るように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医と協力しながら、適切な対応を実施し、症状の変化に対して、即座に対応して行けるように心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人ひとりの個性を尊重しながら、個人の役割を与えたり、イベントを実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	施設の近辺にある栃木県運動公園を利用しながら、家族と共に楽しい時間を過ごせるように努めている。	グループホームの周りを職員と一緒に散歩している。近くに緑の多い運動公園もあり楽しめる。職員が同行しドラッグストアで買い物したり市の図書館で本を借りたり、家族と外出しカラオケを楽しむ人もいる。夏には外に椅子を出して座って時間を過ごしたり、戸外に出る機会を作っている。近所の人も顔見知りであれば挨拶を交わしてくれる。	

トウルーケアG.H.ハイブリッジ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様には一人ひとりの小遣い帳を作り、小口の財布を利用して支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様に対しては、家族への連絡をご自身にして頂いたり、手紙を書いていただくこともしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の色彩等に関しては、各フロアーにおいて個性を生かしながら、居心地の良い環境作りを行っている。	各ユニットのリビングはワンフロアーで広く、壁紙の色を変えてそれぞれの個性を出している。大きな天窓が玄関やリビングを明るくしている。利用者の習字や折り鶴などの作品も飾られ、利用者がゆったりと過ごせる場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設におけるセカンドフロアー等は、設けてはいませんが、玄関のフロアー等、または、交流センターを利用しながら、居場所の工夫を考えて実施している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の使いやすい物や使い慣れた物を持参したりして、少しでも心地よい居室を目指している。	各居室にはエアコン、ベッド、タンス、洗面台が備え付けで、ベッドは外が見えるように配置している。写真、位牌、人形、テレビなど利用者の好みの物を持ち込んでもらっている。来客の時は椅子の提供をするなど配慮している。掃除は毎日昼食後職員が行い、部屋の清潔を保っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の家族の写真等、また、衣類の整理整頓、居室内の清掃をしたりしながら、ご自分の生活を見出せるよう、支援している。		